

2013(平成 25)年 2 月 1 日

各 位

東燃ゼネラル石油株式会社  
問合せ先:  
EMG マーケティング合同会社  
広報渉外本部  
Tel: 03-6713-4400

**「企業間連携を通じた水素の有効活用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減」の「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド'12」認定について**

東燃ゼネラル石油株式会社川崎工場(以下「当工場」、工場長: 宮田知秀)とJX日鉱日石エネルギー株式会社川崎製造所(以下「JX日鉱日石エネルギー川崎製造所」)が共同で行っている「企業間連携を通じた水素の有効活用によるCO<sub>2</sub>排出量の削減」が、神奈川県川崎市が主催する「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド'12」に認定されました。

本日(2月1日)、同市内で行われた「川崎国際環境技術展 2013」において認定結果発表会があり、当工場長が出席して川崎市長から認定証を拝受しました。

川崎市は、2008年度にライフサイクル的な視点で製造された製品や技術などの間接的なCO<sub>2</sub>削減効果を検討し、低炭素社会への貢献を見える化する枠組み「CO<sub>2</sub>削減川崎モデル」を策定し、2009年度から3年間の試行実施を踏まえて、このモデルに基づいて製品や技術等のCO<sub>2</sub>削減の貢献度を評価する「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」を2012年度から本格的に実施しています。

当工場では水素製造装置で脱硫装置に必要な水素を製造し、その過程でCO<sub>2</sub>を排出する一方、JX日鉱日石エネルギー川崎製造所ではスチームクラッカー(エチレン製造装置)から発生した水素の一部を燃料として利用しています。企業間連携を通じ、JX日鉱日石エネルギー川崎製造所からパイプラインで水素を当工場に移送し有効活用することで、両社合計でCO<sub>2</sub>排出量を削減するなど、次のような効果があり、JX日鉱日石エネルギー川崎製造所から当工場への水素融通がCO<sub>2</sub>削減に寄与することから、当工場とJX日鉱日石エネルギー川崎製造所が共同で応募していたものです。

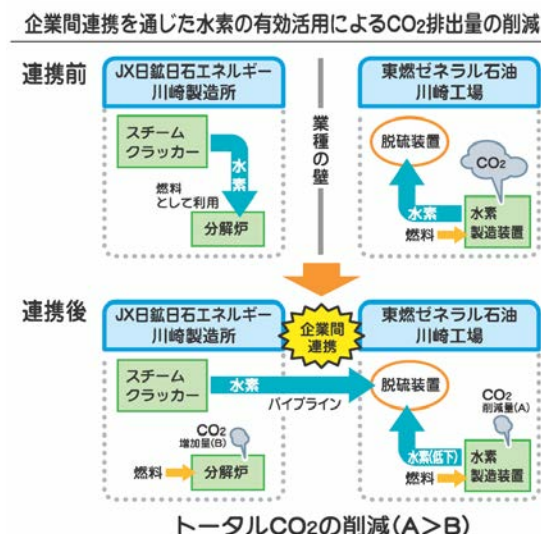
- 企業間連携による水素の有効活用により、CO<sub>2</sub>排出量年間約 1,800トンの削減効果
- 副生成物である水素を石油製品品質改善に用いることで、コスト削減となり競争力向上

以 上

当工場と JX 日鉱日石エネルギー川崎製造所  
間企業連携のイメージ図

認定結果発表会にて

低 CO<sub>2</sub> 川崎ブランド'12  
認定ロゴマーク



(左から JX 日鉱日石エネルギー川崎製造所原田所長、阿部川崎市長、宮田工場長)

